



# OPINION

## 米山和道

東京都文京区立明化小学校校長

私はこう考える

東京都安全教育研究会会長、日本安全教育学会常任理事を務める。著書に「交通事故から命を守る(自転車)」、「子どもの安全と危機管理」(共著)、「学級における安全指導と展開」(共著)などがある。

### 「子どもの安全安心のために」 「生きる力を育む」学校教育の推進を

ここ数年、学校の安全が大きく注目されている。学校の内外で子どもたちが対象となる犯罪が多発していることが背景にあるといえよう。こうした犯罪による被害だけでなく、交通事故なども含めて、学校管理下の事故は依然として多く、米山さんは児童・生徒の安全な生活を取り巻く状況は「層、深刻化している」という。「安全であるべき学校の安全神話は崩れたといえます。こうした現状からも、子どもたちの生きる力を育む安全教育の充実が求められています」。

#### 5つの原理をもとに 組織的な安全指導を

「今までの学校の取り組みの問題点は、交通安全指導の内容の位置づけが甘かったことです。『約束事を破ってはいけない』、『道路に飛び出してはいけない』、という言葉上の指導に満足していて、子どもが『はい』と言えよよかったです。しかし、実際の事故では「クルマに気づかなかつた」ことで事故が起きています。小学生の事故の傾向は、子ども同士が一緒に行動しているときに注意が散漫になって起きることが多い。転がったボールや先を行く友だちの後を追って道路へ飛び出す。子どもは何か夢中になると、安全を確認せずに道路に飛び出してしまふ行動特性があるという。こうしたことを防ぐためには、子どもたちが自分で状況を考え、「止まる」「確かめる」という行動につなげる教育が必要になる。

「生きる力を重視した安全教育を教育過程に編成し推進することが重要となります。時間的になかなか難しい面もありますが、安全指導を計画的に位置づけ、年間を通じて継続的に、具体的に取り組みが重要です。これは個々の教師が勝手にやっていると定着しません。教員間の安全についての共通理解が大事です。また、全教職員の共通理解と連携を組織的に進めるには、校長、教頭のリーダーシップと教員の意欲・資質の向上が欠かせません」。

「安全指導を組織的に進めるときは、次の5つの原理だ。①一貫性の原理 ②反復性の原理 ③意識化の原理 ④個別性の原理 ⑤集団性の原理」

子どもの望ましくない行為を、どの教師も一貫して見逃さずに指導することが一貫性の原理だ。決まりがなかなか守られなくても、繰り返しが長に指導していくことが反復性の原理。意識化の原理とは、子どもの目に訴え、耳に聴かせ、心に感じ入るような指導法を絶えず工夫することである。個別性の原理はほかの子は守れても、どうしても守れない子どもには、なぜその子が守れないか検討して、個別に指導することである。集団性の原理は、自分の学校、学校が魅力のある集団であれば、子どもたちはその集団の望ましいと思われる社会的規範や行動様式を守ろうとし、よりよい方向に相互影響を及ぼすことをいう。この中でも米山さんが重要とするのが意識化の原理だ。「子どもの心を揺さぶり、子どもが自分の行動を変えてみようと思つたときに授業は成功したといえます。交通安全教育は、生涯にわたって社会で生きていくときの財産になります。ここで培ったことが大人になっても生き続けるように、子どもたちの安全意識を育んでいきたい」。米山さんは力強く語った。

## HOW TO LEAD

★効果的な安全手法を学ぶ

[月の輪自動車教習所 / 月の輪モーターサイクルスポーツクラブ・ライディングスクール]

### バイクを思い通りに操る運転技術を身につけ、安全運転につなげる

月の輪自動車教習所(滋賀県大津市)の輪モーターサイクルスポーツクラブでは、卒業生を対象にしたライディングスクールを2000年から実施している。今年も10回の開催を予定。毎回、メインとなる課題を設定し、受講者全員で取り組んでいくのが、このスクールの特長である。同教習所の卒業生であれば、随時受講が可能となっている。

#### 毎回、異なる課題に 受講者が取り組む

REPORT

午前9時30分、スクールが始まる。この日はコーナリングに関する課題。メインで指導を担当するのは、月の輪自動車教習所の指導員、安原衛さんと宇野貴史さん。

「今回は中上級者の方が多いので、バイクを旋回させる直前に曲がりたい方向と逆の方向にハンドルを少しさげる『プッシング・プリングリーン』と、コーナリングの時に外側の膝(左カブの場合)は右足)に力を入れてバイクを傾ける『アウトサイドステップリターン』を練習してみよう」と安原さんが練習内容を説明する。

「プッシング・プリングリーン」とは例えば、左に曲がりたい時、バイクを傾ける直前に、左手でハンドルを軽く押すイメージ



安原さんと宇野さんは受講生と対話をして、その反応を確かめながらスクールを進めていく。安原さんは月の輪モーターサイクルスポーツクラブのチーフメカニック。宇野さんは今年の全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会(本田技研工業(株)安全運転普及本部主催)で二輪部門総合4位入賞の実績を持つ。



教習所内の外周コースで、大きなS字を描くように走行

最後は、この日身につけたことをスムーズなコーナリングをめざす

#### バイクが傾きかけを 意識的に作り出す

受講者は自分のバイクで、練習を開始する。最初は長い直線で大きなS字を描くように走行し、「プッシング・プリングリーン」の感覚をつかむ。次にパイルオンで設定されたコースを固回る。安原さんは休憩を兼ね、受講者を集め、一人ひとりに練習の感想を聞いた。「バイクの倒し込みが楽になった」「ハンドルを押す加減が難しい」「使った方が良いコーナート、使わない方が良いコーナートがあることがわかった」と、受講者が気づいたことを次々に話していく。

「この『プッシング・プリングリーン』は、中高速で曲がるようなゆるやかなコーナードで使うとバイクが曲がりやすくなります。逆に、交差点などの曲がり角では使えない方がいいでしょう」と安原さん。

**ベーシック・データ**

- 目的  
二輪免許を取得したが、公道で正しい走行ができるか、不安を持っている卒業生、また、もうワンランク上の運転技術を学びたい卒業生のニーズに応えるため、教習では伝え切れなかった安全運転に必要な技術を指導する。卒業生の紹介があれば卒業生以外でも参加することが可能。
- 実施日(取材日)  
2005年9月25日(日)  
午前の部9:30~12:30 午後の部13:30~16:30  
午前と午後は同じ内容で、受講者は都合の良い時間帯を選択できる。
- 受講生数  
午前の部・午後の部・合計27名



月の輪自動車教習所の広いコースが利用できることも、このスクールの魅力の一つ

#### 指導した内容がどのように 解釈されているかを確認

HINT

「このライディングスクールを企画し、現在も運営を担当する月の輪自動車教習所・副管理者の小林達之さんは、「毎回、メインとなる課題を設定し、反復練習によってそれを1つ1つクリアしていくことで、受講者は自分の運転技術の進歩を実感してくれると思います」と語る。また、スクールではバイクに乗って練習をするだけでなく、指導員と受講者がコミュニケーションをとる時間も設けている。「私たちが指導した内容を受講者の方々がどのように解釈しているか、対話しながら確かめるようにしています」(小林さん)。

今回はコーナリングについての課題であったが、他にもブレーキ操作やアクセル操作に関するものがあり、1年を通じて、さまざまな運転技術が学べるようになってきている。実際に、同教習所を卒業して間もない受講者が1年間受講した例も少なくないという。